

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	瀬高町立瀬高中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	6	1	17	30
生徒数	181	195	230	5	611	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着を図る授業の創造 ～くり返し学習を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年 国語科 生徒の理解の状況に差がしやすい教科であるため ・全学年 数学科 生徒の理解の状況に差がしやすい教科であるため ・全学年 社会科 生徒の理解の状況に差がしやすい教科であるため ・全学年 理科 生徒の理解の状況に差がしやすい教科であるため ・全学年 英語科 生徒の理解の状況に差がしやすい教科であるため
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る授業の創造</p> <p>仮説 各教科の授業づくりにおいて、次のような手順をふまえてくり返し学習を設定すれば、「基礎的な学力A」「基礎的な学力B」ともに向上するので、子どもに基礎・基本を確実に定着することができるであろう。 「基礎的な学力A」「基礎的な学力B」それぞれにおいて、定着させたい基礎・基本を明確にする。 それらを定着させる手だてを明確にする。 それぞれの手だてを授業レベルで具体化し、各単元に位置づけてくり返す。 定着したかの評価を行い、それによって補充的な学習にフィードバック、もしくは発展的な学習にステップアップする。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教師が1年の内1回重点単元を決め、総論や教科論をふまえた指導案を作成し、公開授業を行い、教科部会で授業研究会を実施する。その際、指導主事等の外部指導者を招聘して指導助言をもらい、授業改善の指針とする。 ・校内の全体研修会に外部講師を招聘し、基礎的・基本的学力の定着を図る、目標、指導、評価の一体化を図る授業の展開についての研修を行い、共通理解のもと、授業改善に努める。
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る授業の創造</p> <p>仮説 各教科の授業づくりにおいて、次のような手順をふまえて繰り返し学習を設定すれば、「基礎的な学力A」「基礎的な学力B」ともに向上するので、子どもに基礎・基本を確実に定着することができるであろう。 「基礎的な学力A」「基礎的な学力B」それぞれにおいて、定着させたい基礎・基本を明確にする。 それらを定着させる手だてを明確にする。 それぞれの手だてを授業レベルで具体化し、各単元に位置づけてくり返す。 定着したかの評価を行い、それによって補充的な学習にフィードバック、もしくは発展的な学習にステップアップする。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科での「基礎的な学力A、B」のとらえ、および、その定着をめざした指導の在り方を再考する。特に、「基礎的な学力B」の指導方法を開発する。 ・補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導の充実を図る。 ・検証方法を確立する。 ・全教師が1年の内1回重点単元を決め、総論や教科論をふまえた指導案を作成し、公開授業を行い、教科部会で授業研究会を実施する。その際、指導主事等の外部指導者を招聘して指導助言をもらい、授業改善の指針とする。 ・校内の全体研修会に外部講師を招聘し、基礎的・基本的学力の定着を図る、目標、指導、評価の一体化を図る授業の展開についての研修を行い、共通理解のもと、授業改善に努める。
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

「基礎・基本が確実に定着したか」という検証については、学年末に「観点別到達度学力検査(TK式DRT)」を実施し、成果を分析することとしているので、ここでは教師の立場での成果を述べる。

「基礎的な学力A、B」を整理する中で、我々は教科指導を通して生徒にどんな力をつけようとしているのか、学習指導要領をもとにじっくりと考える機会を得た。また、「基礎的な学力Aが基礎的な学力Bを支える」という考えに立った分析により、一つの単元の中だけでなく、単元と単元、領域と領域のつながりを意識するようになったし、教科指導の本質は何かを考えるきっかけとなった。

2. 今後の課題

- ・各教科での「基礎的な学力A, B」のとらえ, および, その定着をめざした指導の在り方の再考。特に, 「基礎的な学力B」の指導方法の開発。
- ・補足的な学習や発展的な学習など, 個に応じた指導の充実。
- ・検証方法の確立。

学力把握のための学校としての取組

定期的な学力調査……年間2回 4月, 2月
 (5教科実施。2月は観点別目標基準準拠検査。)
 定期考査……………1学期中間, 期末・2学期中間, 期末・3学期期末
 (原則として中間考査は5教科, 期末考査は全教科実施。)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

期 日	場 所	会の目的	対 象
平成15年6月9日	本 校	授業公開・検討会	小・中教員
平成15年10月28日	本 校	実践交流会	小・中教員

平成15年度取り組みの紹介パンフレット作成。

~~~~~  
 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】             15年度からの新規校             14年度からの継続校
- 【学校規模】                     3学級以下                             4～6学級  
                                    7～9学級                               10～12学級  
                                    13～15学級                            16学級以上
- 【指導体制】                     少人数指導                             T・Tによる指導  
                                    その他
- 【研究教科】                     国語                                     社会                                     数学                                     理科  
                                    外国語                                 音楽                                     美術                                     技術・家庭  
                                    保健体育                               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】                    有     無